京都CF information

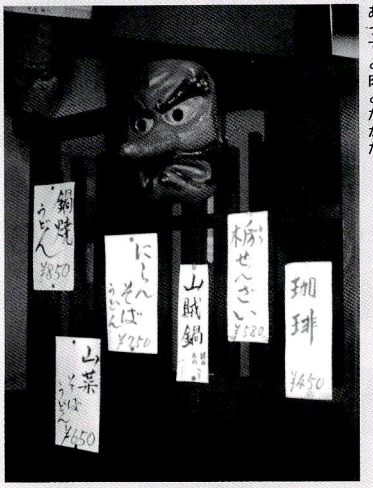
もうひとつの京都CF！がここにあります。
京都CF！スタッフブログ

「京都CF！編集長の無責任時代」「nao's 京都牧遊記」など、京都CF！のスタッフが京都の街を綴ります。スタッフが街で見つけてきたオモロイもん、誌面では紹介できなかった取材の裏話や取材の現場をなどを、日々の奮闘ぶりと共に垣間見ることのできるのがこのブログ。スタッフブログへのアクセスは、下記の京都CF！ホームページからどうぞ。

http://www.kyotocf.com/

今月のオレが甘かった

世にも恐ろしい天狗の晩餐!?



あまりにも気になって仕方がないので、近寄ってみると…あ、鹿肉・猪肉入りってちゃんと書いてありました。山賊肉じゃなかったのね～（当たり前だけど）

ミイラ取りがミイラに…鍋の具材取りが鍋の具材に？

山賊鍋と言えば九州がメッカだとかなんとか…。本来、山の恵みである茸や山菜と鹿や猪などの獣肉を豪快にぶち込んだ鍋が山賊鍋って言われているはず。いえ、そんなことより気になるのは山賊鍋の品書きと、その上に掛けられた天狗のお面の関係。ほら、写真の天狗と山賊鍋の品書きをみてるとね、山を荒らす山賊どもを「コラァ～待てぇい！」と天狗がとっ捕まえて鍋にして喰って…おぉ、なんて恐ろしい鍋なんだ！ な～んてバカバカしい妄想に浸ったりするわけですよ。はい、失礼致しました～。

■市内某所にて

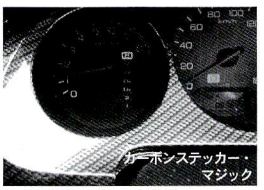
Kyoto Car-Moratorium
～京都人のクルマ知らず～

ナイスガイは結婚が遅れる
《実践編①～インテリア～》

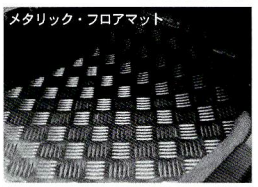
3rd Lap

さて、見出しにある米国の諺、「ナイスガイは誰にも嫌われないが、誰一人魅了することができない」のと同じように「都大路を走る車はなんとなく個性的だが心を奪われる車がない」現状を何とかしたいという企画。昨月号の概念に続き、今月からは2カ月に分けて、車道家元である私が心を奪われた「お客様のアイデア・カスタマイズ」を写真付で紹介しよう。

まずは実際に車に乗り込む我々の、最も身近にある内装から。走行中は見られるものではないが、人を乗せたときには破壊力抜群である。



カーボンパターンのシートを貼ったもの。スパルタンな印象＆愛嬌も。シートは50cm×50cmで約2000円。カーボンより軽い！

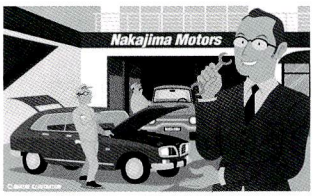


金物店で鉄板を購入、切って置くだけ。意外と滑らず、足下をヘビーな印象に仕上げている。鉄板は105cm×140cmで10000円ほど

極めつけ！ 初デートにも倦怠期の夫婦にも威力を発揮。コンソールボックスにプチ込み、モニターはナビを流用。要るのは、手間だけ

「自分のアイデア、お金をかけない、DIY」も極まれり。全てお客さんのアイデアで、素人さんゆえの自由な発想に脱帽した例の数々である。京都人が得意とする「オリジナリティ溢れる利口な」ドレスアップ。こういうカスタマイズを「センスが良い」と言うのだろう。

さて、来月は外装の実例をご紹介しよう。



中島 崇（なかじま・たかし）

'68年生。自称「車選びの達人」。創業昭和38年、北区は紫野の自動車屋・（株）中島商会の二代目社長にして「安くていい車」を探すスペシャリスト。かつて自動車オークションの取引で2000万円をドブに捨て、大失敗の連続から学んだノウハウをまとめた無料小冊子「その車に手を出すな！」も好評。中島流「車道家元」を目指す京都人。

林的映画三昧

イラスト＆文 ハヤシチサコ

ハヤシチサコ・無類の映画好きのイラストレーターにしてグラフィックデザイナー。
「Club Fame」時代には、彼女のデザインが表紙を飾ったこともアリ。編集部の熱望により本誌への登場と相成った。